

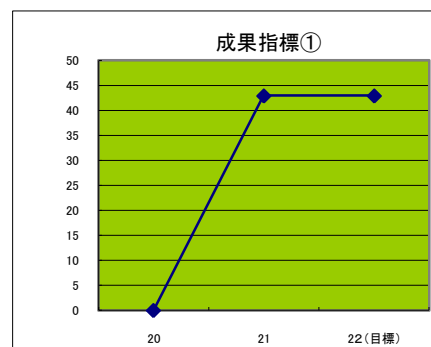
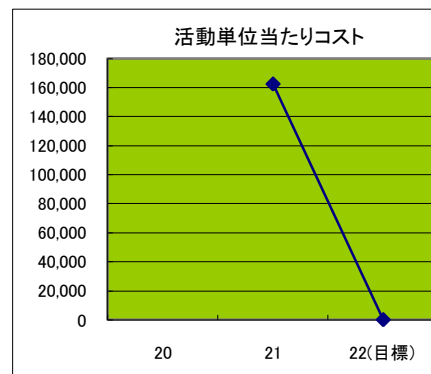
平成 22 年度 事務事業評価シート(平成 21 年度実施事業)

整理番号

土道14

事務事業名		交通安全施設等整備事業（市道郡戸古市線）		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	1	安全・安心、快適で住みやすいまち		款	8	土木費
	施策(節)	9	道路交通		項	2	道路橋梁費
	施策の方向	(2)	計画的な道路整備と維持管理の推進		目	4	交通安全施設整備事業費
関連する計画等				事業		51	交通安全対策第1種施設整備
作成部署				土木部道路課			
対象（誰を・何を）				連絡先		072 - 958 - 1111 内線 2236	
市道郡戸古市線							
意図（どういう状態にしたいのか）							
交差点改良による渋滞の解消及び波打歩道の解消によるバリアフリー化を図る。							
事業の内容							
工事延長 L=522m W=2.5~3.5m 第1工区 L=224m 交差点改良 1箇所 歩道改良（バリアフリー化） 第2工区 L=298m 歩道改良（バリアフリー化）							
根拠法令等 道路法 道路構造令 他							
事業開始時期							
☐ 昭和 20 年開始 ☐ 明確にはわからない ☐ 市制施行（昭和34年）以前より行っている							
事業開始時からの状況変化							
市民や議会の要望							
実施手法							
☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他（ ）							
委託先							
☐ 市外郭団体委託 名称（ ） ☐ 民間委託 ☐ その他							
委託内容							

区 分		20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		4,538	33,973	0
人件費【2】 (千円)		1,650	2,400	0
職員数	正規職員	0.22 人	0.32 人	0.00 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費（【1】+【2】）【A】 (千円)		6,188	36,373	0
財源内訳	国費 (千円)		16,500	
	府費 (千円)			
	市債 (千円)		16,500	
	その他（手数料・使用料等）(千円)			
	一般財源 (千円)	6,188	3,373	0
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		20年度	21年度	22年度(目標)
① 道路整備延長	m	0	224	224
②				
③				
活動単位当たりコスト(【A】/【B】①)		円	162,379 円	0 円
市民1人当たりコスト(【A】/人口)		52 円	306 円	0 円



成果指標	指標名		単位	指標設定の考え方	平成20年度		平成21年度	平成22年度
	①	整備率 (式) 整備延長÷工事総延長×100	%	施設整備延長に対する工事総延長の割合	目標	0.0	42.9	達成率(%)
					実績	0.0	42.9	100.0%
	②	総事業費に対する整備済事業費 (式)	千円	事業費ベースでどの程度進捗したか	目標	98,511	98,511	達成率(%)
					実績	4,538	38,511	39.1%

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	通学路でもあり、障害者やお年寄りが安心して歩けるような歩道整備が必要である。

視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	歩道のバリアフリー化を進める上でも妥当な事業である。
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
	社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	緊急性が認められる	☐	☒	☐	
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	計画どおり行っている。
	受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	バリアフリー化を進めて行く上にも有効な事業である。
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
	成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
	市民の視点にたつてサービスが提供されている	☒	☐	☐	
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	他事業との調整が必要であり、地元町会と連絡を取りあい事業を進めている。
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☒	
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	平成21年度の整備率は前年度より向上している。
	成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	交差点改良により渋滞は、無くなった。バリアフリー化の工事に伴い、波打ち歩道や段差解消がされ安全に通行できるようになった。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
行 革 本 部 評 価	八尾富田林線整備事業(大阪府)と悲田院建替え事業(四天王寺)との調整により22年度は休止し、23・24年度に行う予定。	
	総合評価	評価理由・意見
	☒ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☒ 方法改善	
	☒ 民営化・民間委託 ☒ 縮小 ☒ 廃止・休止 ☒ 完了	